

喫煙・飲酒

【現状と課題】

- 【認知度】
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）を「知っている」と回答した人の割合は都の数値より低い。
 - 生活習慣病のリスクを高める飲酒量（1日当たりの純アルコール摂取量が男性40g以上、女性20g以上の者）を知っている人の割合は、男女ともに数値が高い。
- 【行動】
- 成人の喫煙率について、国や都の数値より低い。男性の20代から60代までが「毎日吸っている」人が多い。
 - 「毎日吸っている」「ときどき吸っている」「この1ヶ月間は吸っていない」と回答した人141人中、約5割が「やめたい」、「本数を減らしたい」と回答している。
 - 平成26年度の妊娠届出書のアンケート票によると、妊婦の喫煙率は1.2%、「妊娠してやめた」という人を含めると9%であった。
 - 受動喫煙は、57.5%が機会があったとしており、場所ごとでは、「飲食店」、「路上」、「職場」の順になっている。男性の30代から50代は「職場」の割合が高い。
 - 喫煙者のマナーでは、「指定の喫煙場所を探す」「ポイ捨てをしない」が上位になっている。
 - 毎日お酒を飲む人については都と比較して低い。男性の60歳以上の割合が高い。
 - 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合は、男性33.5%、女性48.2%でいずれも都の数値より低い。
 - 飲酒をしている人の中でも「適切なお酒の量にするために工夫をしている」人は、60歳以上に多い。

○成人の喫煙率は比較的低い。喫煙者は、男性の20代から60代までが多い。場所により受動喫煙の機会が多いところがある。

○飲酒自体をする人の割合も少なく、生活習慣病のリスクを増やす飲酒をしている人の割合も、比較的少ない。毎日飲酒する人は60代以降の男性に多い傾向がある。

【指標一覧】

	指標	現状値	都や国の数値	目標 (考え方)
	【認知度】			
1	慢性閉塞性疾患 COPD を「知っている」と回答した人の割合	19.8%	22.6% (都) ※1	80% 健康日本21
2	生活習慣病のリスクを高める飲酒量を知っている人の割合	男性75.9% 女性50.8%	(都) ※1 男性69.3% 女性46.7%	ふやす
	【行動】			
3	成人の喫煙率（毎日吸う、ときどき吸う人の割合）	14.0%	(都) ※2 42.9%	12% 健康日本21
4	妊婦の喫煙率（26年度） 妊娠届出書のアンケート結果より	1.2%	—	0% 健康日本21
5	自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）があった人の割合	57.5% 飲食店 46.3% 行政機関 1.6% 家庭 20.5% 路上 38.4% 職場 24.0%	参考 国※3 飲食店 35.2% 行政機関 3.8% 家庭 20.5% 路上 28.2% 職場 25.8%	(健康日本21) 飲食店 へらす (15) 行政機関 0% (0) 家庭 3% (3) 路上 へらす 職場 へらす
6	生活習慣病のリスクをふやす飲酒をしている人の割合 男性2合以上 女性1合以上 (ほとんど飲まない人以外で上記飲酒量をしている人の割合)	男性33.5% 女性48.2%	(都) ※2 男性43.6% 女性58.0%	健康日本21 男性13.0% 女性 6.4%
7	適切な飲酒量にするために工夫をしている人の割合	40.2% 男性41.1% 女性38.9%	22.3% (都) ※1	ふやす

※1 「都の健康に関する世論調査」

※2 「都の福祉保健基礎調査 平成26年度」
※3 「国民健康・栄養調査 平成25年度」

【目標】生活習慣病のリスクをふやす習慣を持つ人をへらす。

- 1. 成人の喫煙をへらす。
- 2. 妊婦の喫煙をなくす。
- 3. 受動喫煙の機会がある人をへらす。
- 4. 生活習慣病のリスクをふやす飲酒をしている人をへらす。

行政の取り組みについて方向性

- 1. 成人の喫煙をへらす。
 - ◆ 喫煙と生活習慣病のリスクについて普及啓発する。
 - ◆ COPD慢性閉塞性疾患について普及する。
- 2. 妊婦の喫煙をなくす。
 - ◆ 母子保健事業で喫煙・受動喫煙が及ぼす健康への影響について普及啓発を行う。
- 2. 受動喫煙の機会がある人をへらす
 - ◆ 公共施設の受動喫煙対策を推進する。

事業名	内容	主体
喫煙マナーアップキャンペーン	迷惑喫煙やごみのポイ捨てに対する意識の向上を目指し啓発活動を行っている。	環境政策課

- 3. 生活習慣病のリスクをふやす飲酒をしている人をへらす。
 - ◆ 生活習慣病のリスクをふやす飲酒量について普及啓発する。
 - ◆ 飲酒が及ぼす健康への影響について、普及啓発を行う。